

「キリストが私を用いて成し遂げて下さった」

ローマ 15：14-21

堀田修一 24・11・3

I パウロの深い配慮。これまで、ローマ教会の中にある考え方の違いがあっても一致できることを語ってきたが、ローマの教会の人々に、その問題を解決する力が主から与えられていると確信している。「私の兄弟たちよ。あなたがた自身、善意にあふれ、あらゆる知識に満たされ、互いに（主にあって一致するように）訓戒し合うことができる」と、この私も確信しています。ただ、あなたがたにもう一度思い起こしてもらうために、私は所々かなり大胆に書きました」：14。「互いに訓戒し合う」秘訣が記されている。訓戒し合うことは容易ではない。訓戒は、お互い、心を固くし閉ざしてしまふ。「何を言われるか？訓戒すれば、その後の関係はどうなるか？」と心配も増す。それに対して、本日のみことばに、互いに訓戒し合う前に、二つの必要な事が記されている。

- ① 「善意にあふれ」＝「善意」とは、「優しく他者への思いやりに満ち人格を愛する品性」の事です。人は、同じ訓戒でも、優しく思いやりに満ちて人格を尊重して語られるときに心を開き易いのです。訓戒する必要がある時に、良く祈りましょう。「主よ。私に相手への優しさと思いやり、違いがあっても人格を愛する愛で満たしてください」と。神が下さる相手への善意、優しさ、思いやりは、警戒心や誤解や対立を取り除き、「互いに人格を受け入れ合う一致」を保ちます。
- ② 「あらゆる知識に満たされ」＝この知識とは、みことばの正しい知識とあらゆる問題に対する正しい洞察と理解の事です。偏った情報を鵜呑みにし、事実を理解していない的外れの訓戒もあります。神が下さる正しい洞察と理解し合う心をもって訓戒し合い主にある一致を保ちましょう。

II パウロの伝道と共に働かれる主

1. 「私は、神が与えてくださった恵み（救いと賜物）のゆえに、異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となったからです。私は神の福音をもって、祭司（神と人の仲介をする人、神と人の和解と交わりのためにとりなしをする人）の務めを果たしています。それは異邦人が、聖霊によって聖なるものとされた、神に喜ばれるささげ物（主を信じ神を心から礼拝する者）となるためです」：15, 16。この真理は、ローマ12：1に通じる→「ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です」。一つのキリストのからだとして一つの礼拝を共に神に捧げる。

2. 「ですから、神への奉仕について、私はキリスト・イエスにあって誇りを持っています」：17。パウロは、主に出会う前は、キリスト者を迫害し（「私はこの道を迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです」使徒22：4）、旧約の神に従っていると思っていましたが、心の中が神の光に照らされ、罪人のかしらと自覚させられました。その罪深い自分が滅びず、主に救われたことに驚き感謝していました。パウロは、神から与えられた福音を伝える奉仕の任務を誇りとし、感謝していました。私も同じです。滅んで当然の罪深い私が、主に救われ、主を伝

える者、教会を建て上げる者に召されたことは身に余る光栄、誇り、喜びです。神は一人一人に、心さわしい使命、仕事、役割を与えておられます。人と比べないで、神が自分に与えられた使命、仕事、役割、奉仕を誇り、喜び、光栄な事と受け止めましょう！役割を神からの使命と受け取り直す時に、感謝とやりがいを与えられます。「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」（Iコリント7：7）。

3. 「私は、異邦人を従順（主を信じ、感謝して主に従い人生を歩む者）にするため、キリストが私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かをあえて話そうとは思いません。キリストは、ことばと行いにより、また、しるしと不思議を行う力と、神の御霊によって、それらを成し遂げてくださいました」：18, 19。パウロは自分を誇らず、常に神と主に栄光を帰すことを心がけていました。「キリストが私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かをあえて話そうとは思いません」＝これは、別の表現をすると「私が自分の力で成し遂げたことは、何一つなく、すべてはキリストが私を用いて成し遂げて下さった御業です。すべて主に栄光を帰します」ということです。※証し「私もまったく同じで確信をもって証しします。欠けだらけで弱い私が、約45年間、伝道牧会を続けていますのは、100%、主のおかげです。ただただ、欠けだらけの器の私を主が用いて成し遂げて下さった御業ばかりです！主により頼み福音を伝え、人々が主を信じて救われるのは、すべて主の御業、奇跡です。洗礼後、一人一人が、みことばの力とともに交わり祈り合い、相談を受け共に祈ることにより主の姿に成長され、主の教会が建て上げられるのもすべて主の御業、奇跡です。神に栄光を帰し、神、主の栄光を讃えます。「主は彼女（リディア）の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた」（使徒16：14）。主は、今も、私たちが愛をもって祈りつつ福音を語る時に、主は、人々の心を開いて福音に心を留めるようにされます。体験し続けている者として証しできます。「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」（マタイ28：20）

4. 「こうして、私はエルサレムから始めて、イルリコ（マケドニヤ地方の北部、ピリピ、テサロニケの北西にあたる町）に至るまでを巡り、キリストの福音をくまなく伝えました」：20。

5. 「このように、ほかの人が据えた土台の上に建てないように、キリストの名がまだ語られていない場所に福音を宣べ伝えることを、私は切に求めているのです」：20。「ほかの人が据えた土台の上に建てないように」＝ほかの人（神の働き人）への尊敬を失わず、神が導かれたそれぞれの領域を邪魔しない。すでにある教会のすぐそばで開拓伝道をしない。※証し。「キリストの名がまだ語られていない場所に福音を宣べ伝えることを、私は切に求めている」＝まだ教会がない所で開拓伝道、教会形成をすることを切に祈り求める。一人でも多くの人に福音を伝えるために。ここに、福音宣教の「聖なる情熱と神からの限度を越えない礼儀」が記されている。愛は「礼儀に反することをせず」（Iコリント13：5）。「彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしていますが、愚かなことです。…神が私たちに割り当ててくださった限度内で、あなたがたのところまで行った…私たちは、自分の限度を超えてほかの人の労苦を誇ることはしません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間で私たちの働きが、定められた範囲内で拡大し、あふれるほどになることを望んでいます。それは、あなたがたより向こうの地域にまで福音を宣べ伝えるため」（IIコリント10：12-16）。このみことばから大切な事を学びましょう。

①他の人と比較して自分の価値を決めない。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあ

なたを愛している」(イザヤ43:4)とのみことばに自分の価値感を置く。互いの教会の領域を尊重し合い、福音が伝えられていない所で主を伝える。

②神が私たちに割り当てて下さった限度内で、福音を伝え奉仕を喜んでする。

③お互いの信仰が成長し、私たちの働き、奉仕、福音宣教が、神が定められた範囲内で拡大し、神の恵みの福音があふれ、まだ福音が伝えられていない人々、地域にまで福音が宣べ伝えられるように祈りましょう。※私たちに福音を伝える人がいなければ私たちは救われていない。

6. 「こう書かれているとおりです。『彼(救い主)のことを告げられていなかった人々が(救いの恵みを)見るようになり、聞いたことのなかった人々が(主の救いの福音)を悟るようになる』: 21。

祈り: 意見が違ってても人格を尊重する善意、愛に満たされ、互いに訓戒し合い、主の教会の一致を保てますように。各教会が神が割り当てられた領域で共に働いて下さる主と共に福音宣教ができますように!